

3. リスク情報利用拡大における障害 セッション2 不確実さを認識して対処する

— 大きな不確実さがあるPRA結果は、
意思決定に使えないのか？ —

座長 西村 聡

原子力リスク研究センター リスク評価研究チームリーダー

2024年11月12日

原子力リスク研究センター ワークショップ2024
— 意思決定におけるリスク情報の活用：利点と障害 —

セッション2 不確実さを認識して対処する

—大きな不確実さがあるPRA結果は、意思決定に使えないのか？—

➤ 背景

- 意思決定において、PRAから得られた情報は参照する情報のうちの一つであるが、日本国内において、リスク情報の評価結果等を含めた情報を基に行う意思決定(RIDM)の普及の障害の一つに「不確実さ」の扱い方が考えられる。
- 自然外部事象を含む内的・外的事象のリスク情報の評価において、不確実さを取り扱う手法は存在している。
- 不確実さはPRA固有の特徴・問題なのではなく、PRAは不確実さを定量化するだけで、不確実さ自体は手法に関わらず存在する。決定論的手法だけに限定しても、不確実さがなくなる訳ではない。

セッション2 不確実さを認識して対処する

—大きな不確実さがあるPRA結果は、意思決定に使えないのか？—

➤ 課題認識とセッションの目的

- 不確実さを理由に定量的なリスク情報抜きで決定論的、定性的な意思決定を行うことがベストとは考えられない。
- (PRAモデルやデータは確たるもの、信頼できるものであることを前提に) 不確実さ評価も反映したリスク情報の評価結果を用いて意思決定を行うことに対して、関係者が感じている”障害”を具体的に特定し、障害となっている原因を探り出す。

セッション2 不確実さを認識して対処する

—大きな不確実さがあるPRA結果は、意思決定に使えるのか？—

➤ 本セッションの構成

- a. 導入(座長):5分
- b-1. 不確実さとその取扱い(NRRC 松山 昌史):20分
- b-2. 不確かさがあるPRAの結果を意思決定に用いることはできるのか(東北電力 佐藤 大輔):20分
- b-3. 新規制基準における不確かさの考慮
(原子力規制庁 村上 玄):20分
- c. 質疑応答と議論:50分